



シリーズ 第94回 人権

高齢者とともに生きる社会

平成19年12月、認知症高齢者がトイレを探して近くの線路に迷い込み、列車にはねられて亡くなる事故がありました。これを受け、鉄道会社は家族に対し損害賠償を求めて訴訟を起こしました。自宅で介護をしてきた家族の賠償責任の有無を争点としたこの裁判は、当時、世間から多くの注目を集めました。それまで、病気などで責任能力のない人が他人に損害を与えた場合は、家族が弁済するものと考えられていたからです。1審と2審では家族の賠償責任を認める判決が出されましたが、平成28年、最高裁で家族の責任は問わないという判決が出され、裁判は決着しました。もちろん、この最高裁の判決が、高齢者による事故の全てに当てはまるものではありません。

私はこの事故のことを知ってから、自分の両親と高齢者の問題を結び付けて考えるようになりました。現在、両親は元気ですが、もしもの時は仕事を続けながらも、親の介護をしたいという思いがあります。しかし、現実にはその両立は難しいのではないかと感じます。そうになると、親の介護のために仕事を辞めるか、仕事のために親の介護を諦めるかという選択肢しか残されていないのでしょうか。こうした問題は誰の人生にも起こり得ることだと思います。それなのに、個人的な問題とみなされ、一部の人のみだけが悩んだり考えたりしなければならないのでしょうか。

内閣府がまとめた令和3年版高齢社会白書によると、総人口に占める65歳以上の割合、いわゆる高齢化率は令和2(2020)年10月1日時点28.8%で、今後も上昇を続け令和18(2036)年

に33.3%で3人に1人、令和47(2065)年には38.4%に達し約2.6人に1人になると推計されています。また、75歳以上の割合は、令和47年には25.5%となり約3.9人に1人になると推計されています。この問題を社会全体で考えていかなければ、加齢により介護が必要とされる高齢者とその家族は心身ともに疲弊してしまい、地域で自分らしく生きることはできなくなるのではないのでしょうか。

今年6月、群馬県館林市の高校生3人が道に迷った高齢者の保護に貢献したというニュースがありました。自転車に乗った高齢者に道を尋ねられ、一度はその場を離れたものの様子が気になり、2km追い掛けて保護につなげたというものです。

この例のように、高齢者を気に掛けていこう、見守っていこうという意識が育まれ、それを広めていくことができれば、いくつになっても誰もが自分らしく生きる社会を実現することができるのではないのでしょうか。まずは自分から、高齢者の問題について考えていきたいと思っています。

(30代・男性)

人権豆知識

新型コロナウイルス感染症の感染者やその家族、医療従事者等の人権が尊重され、差別的な扱いを受けることのないように、今年2月に新型コロナウイルス等対策特別措置法等の一部を改正する法律が施行されました。

私たち一人一人が自分自身を見つめ直し、自らの行動につなげることで偏見や差別のない社会をつくっていきましょう。